

特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆⑦ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「生存指導書」でのポイント

「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

必ず救助される機会は得られる。この希望を捨ててはならない。

リーダー

リーダーは最小限次の点についてできる限りの方法により確実に検討しておかなければならない。

- ①総員退船する前に遭難通信が出されたか
- ②遭難位置はどのあたりか
- ③遭難通信は受信されたという合理的な根拠があるか
- ④救助の見込み
- ⑤救助機関との距離及び救助者の到着所要時間
- ⑥救助者の肉眼またはレーダーの注意をひくのに利用できる信号類の調査
- ⑦飲料水、食糧がどの程度持ちながらえられるか
- ⑧艇員はどの程度の肉体的労働にたえうるか
- ⑨救命艇だったら遭難現場離脱の時間、自力航走の方向。

そして多くの遭難集団があれば、できる限りこの集団を保持するような一切の努力をしなければならない。

「海員だより」